①

# 政治学
# 第１回　政治と国家

0　オリエンテーション
1　政治とは何か
2　国家とは何か
3　権力とは何か

＊講義はパワーポイントのレジメを使用します。基本的に板書はしません。
　オフィスアワーは月曜３限と火曜３限です。
　欠席は５回までです。６回以上欠席すると、講義の単位は取れません。

# ②　０　オリエンテーション①

（１）成績評価の方法（１００点満点で成績を評価）

①７０点：学期末試験

●２０点分：「パワーポイントや教科書で取り上げられたキーワードの説明」

→５個のキーワードの意味を説明する。

＊キーワードは灰色でマーキングし『○○（キーワードの意味）』で提示。

例、『ワークショップ（参加者が目的や課題を設定して、学習しながら、まちづくりの計画案などの策定に取り組む手法。）』

●５０点分：「政治学に関する論述問題」

→複数の論述問題から２つ選び回答する。問題は試験前に発表。

②３０点：講義貢献点

講義に１回出席で２点とする。

# ③　０　オリエンテーション②

## （２）大学の講義を受ける際の注意点

- 指定された教科書がある場合、予習として読んでおきましょう。
- 大学の講義や教科書で使われる言葉は、日常とは異なった意味で使っている場合があります。そのため、言葉の意味を確認しながら教科書を読みましょう。
- 意味が分からない言葉や、日常とは異なった意味で使われている可能性のある言葉は、必ず意味を調べましょう。
- 予習で教科書を読むときは、内容を一度ですべて理解しようと思わない方がよいです。何度も読みましょう。
- 教科書を完全に理解できなくても、講義でフォローするので大丈夫です。ただし、分からないところをピックアップしておき、教員に質問するなどして、少しでも疑問を減らしていきましょう。

# ④　１　政治とは何か①

## （１）政治に対するイメージ

●政治に対する一般的なイメージ

⇒　政治家や公務員がすることで、一般の人に縁がない。

⇒　自分たちや自分たちの国・地域の利益を獲得するために争っている。

⇒　思想（生きる世界や生き方についての、まとまりのある見方や見解。
　　政治の進め方の方向性）をめぐって争っている。

⇒　複雑そうで、何を言っているのか、何をやっているのか分からない。

●ただ、中学や高校の社会科などで、次の言葉は聞いたことがあるかも。

＊　民主主義、政党、議会、内閣、マスメディア、福祉、国際関係など

⇒　これらは政治（学）の基本的な知識である。
　一般の人も政治に縁がなくても政治の知識がゼロという訳ではない。

# ⑤　１　政治とは何か②

## （２）政治の定義

●人間は、集団（家族）の中で生まれ、集団（地域・学校・企業など）の中で育ち、生活していく。集団どうしは相互依存の関係にあるが、対立や紛争の関係になることもある（利害関係の多様性、どの価値を重視するかをめぐる争いなど）。

●対立や紛争、戦争状態にいたると、秩序がなくなり、社会の解体におちいることもある。そこで、対立を調整して社会の秩序を維持し、社会の統合を図ることが求められる。

→これが政治の役割であり、社会統合は政治が必要となる根拠である。

●政治とは、人々が意見や利益を主張しながら、共存し、安全で豊かに暮らしていくためには、社会全体にかかわる事柄について決定する必要がある。また、政治はこの決定に関わる営み（いとなみ）である。

→そして、人々にこの決定に従うように強制する力が（政治）権力であり、人々が政治権力に正統性があると考えるとき、自発的にそれに従う。

# ⑥　　１　政治とは何か④

（３）その他の政治の定義（公務員試験で出題される）

①プラトン：「善のイデア」を把握した哲人による支配

→人類社会の理想の実現を目指す活動が政治となる。

②マキャベリ：権謀術数を駆使して（目的を達成するために、手段を択ばずにあらゆることをして）秩序をつくる君主の支配の技術。

③ロック：固有の権利（生命・自由・財産）を守る社会契約＝人民の同意による統治

④シュミット：経済・文化・宗教等の差異（違い）を背景とした敵と味方（友）との対立性（政治の世界には友と敵しかないと考える：友敵関係）

⑤アレント：私的領域と区別される「公的領域（国家や政府に限定されない）」における人々の活動（意見表明や説得等の言語を通じた人々の相互行為のこと）

⑥イーストン：社会に対する諸価値の権威的配分

→人間社会の対立を調整し、人々の間で合意を得られるように社会的価値（お金、名誉など価値があるとされるもの）を配分することが政治。そして、政府による社会的価値の配分を、人々が正しいものとして受け入れる。

# ⑦　２　国家とは何か①

## （１）国家（近代国家）とは何か

●政治が行われる単位は歴史上いろいろとあり、一つの都市から広大な大帝国を単位とする者もあった。ただ、いずれにおいても社会全体の事柄を取り扱う政府や支配者が（政治）権力を行使してきた。

●国家とは、一定の領域に定住する人々が作る政治的な共同体（家族や村落など、血縁や地縁に基づいて自然的に発生した閉鎖的な社会関係、または社会集団）を指す。国家の形態・役割は歴史的に異なるが，一般には，近代の国民国家を指す。

## （２）国家を成り立たせる条件：国家の３要素

①国民：国家を構成する人々。複数の民族から構成されることが多い。

②領域：領土、領海（日本の場合は原則12カイリ）、領空（大気圏内）

③主権：独立性（自国に対する他国の干渉を排除する排他性、他国との間で相互に平等な主権を持つことを認める）、最高性（国内の諸集団や組織に対して、国内最高の権力を持つ）

# ⑧　２　国家とは何か②

## （２）国家の機能

### ①治安の維持

●Ｍ・ウェーバーは国家を「ある一定の領域内で、正統な物理的暴力行使の独占」と定義している。この物理的暴力を典型的なものが、軍隊と警察である。国家はこれらの力を行使しながら、治安を維持している。

●法執行機関（警察、検察、税関など）も、この維持の機能に含まれる。

### ②サービスの提供

●国家が国民に提供する公共サービスを指す。教育に関する制度（義務教育など）や施設（小中学校、高校、大学等）、国民健康保険や公衆衛生などの社会保障、道路建設といったインフラ整備などである。

●国民が支払った税金をもとに、国家は公共サービスを提供する。

→国家の機能について、どこまでを国家の義務とし、どこからを個々人に委ねるかをめぐって常に議論がなされてきた（かつて、教育や社会保障を提供することは、国家の機能とはみなされていなかった。しかし、貧しい人々にも選挙権が与えられたことで、国家の機能に加えられた）。

# ⑨　３　権力とは何か①

## （１）政治学と権力

●政治学において、権力は中心的なテーマとなる。利益や関心の対立を政治的に解決するためには、社会のメンバーに合意やルールを守ってもらい、場合によっては、社会のメンバーの自由を制限してまでも、その行為を変更するよう求める必要がある。これらを可能にするものが権力である。

## （２）代表的な権力論

①M・ウェーバーとR・ダールの権力の定義

→権力を行使する者と行使される者との関係において、権力を捉える。

●M・ウェーバーは、権力を「社会関係の中で、抵抗を排除してでも自己の意思を貫徹しうる可能性」と定義する。すなわち、権力とは、権力を行使する者が、自己の意思を実現する可能性を意味する。

●R・ダールは、権力を「普通ならBがしないであろう何事かをAがBにさせた場合、AはBに対して権力を持つ」と定義する。すなわち、ダールは権力を行使させる側が行為を変更させたか否かに焦点を当てて、権力を定義している。

# ⑩　３　権力とは何か②

## ②バクラックとバラッツの非決定権力論

●①の議論は「誰が支配しているのか・誰が権力を持っているのか」という点に関心を寄せている。これに対して、バクラックらは、権力は決定する力というだけでなく、権力には事前に争点を排除し、問題の顕在化（その存在を明らかにすること）を抑制する作用があると主張した。

●決定に関わる争点が露見すると権力者に不都合な場合、争点が隠蔽（いんぺい）されることがある。このように決定を行う範囲を制限し、争点を排除することを「非決定権力」という。この権力が行使された者は、不平不満や苦情があっても、これを争点に結びつけることができない。

## ③ルークスの三次元権力観

●ルークスは①を「一次元的権力観」、②を「二次元的権力観」と整理し、自身の権力論を「三次元的権力観」として提示した。

●①と②の権力観では、権力を行使する者と、行使される者の一部が、周りに影響されず、明確な意図を持つ存在であることを前提としている。

# ⑪　３　権力とは何か③

●ルークスの三次元的権力は、権力を行使する者が権力を行使される者を洗脳して、権力を行使する者にとって不都合な考え方を持たないようにする権力である（権力を行使される者の価値観やものの見方に影響を与える）。こうした権力を行使されている場合、工場から有害な排ガスが出されていても、環境破壊の原因と否定的に捉えるのではなく、経済の成長や景気が良いことを証明するものとして肯定的に捉えることになる。

④フーコーの権力論

●権力を行使する者が存在しておらず、構造によって人々の認識を規定する「不可視の権力」の存在を示す。人々はこの権力の存在を（この権力に監視されていると）意識して、自身の行為を自発的に制御するようになる。

●フーコーの権力は、強制や暴力によって本人の意思に反して行動を変更させるものではなく、本人が自発的に自らを規律していくように差し向けていく権力（規律化権力）である。このような仕組みは、病院、学校、軍隊、工場などに浸透しており、人々はこうした様々な場に関与することで、権力に調教され、からめとられることになる。

●フーコーの権力は人々を抑圧するものではなく、人々の健康に関心を持つ（人々の健康な生が社会の良し悪しを左右するため）。国家や行政は、医学や公衆衛生の知識を増大させ、人々の生命や健康を管理しようとする（生ー権力（せいけんりょく））。

# ⑫　３　権力とは何か④

## （３）権力の正統性

●権力を維持して支配を安定させるため、強制力に頼るだけでなく、権力を正しいものとして（正統性があるものとして）人々が受け入れる状況や環境をつくりだす必要がある（強制力だけでは、抵抗や波乱を招くことになるから）。

●メリアムは権力を受容させる手段や状況を次の２つに区別した。

①ミランダ：芸術、儀式、歴史の美化、大衆の動員などによる威力誇示（いりょくこじ）によって大衆の情動に訴え、権力が神聖なものとして意識される状況。具体的には、記念日や記念碑、公共の場の建築物、旗・彫刻などの芸術的なデザイン、音楽や演説を伴う大衆に対する示威行為（軍事パレードなど）など

②クレデンダ：大衆の知性に訴えるものであり、権力の根拠が、[1]神による権力の授権、[2]権力者の指導力（リーダーシップ）の承認、[3]制度的同意（普通選挙制や代議制などで選挙を経て、多数者の合意を得ていること）であることを示す。

# ⑬　３　権力とは何か⑤

## ②ウェーバーの支配の正統性（正当性）の３類型

●ウェーバーのいう「支配」とは、政治権力が人々に正統（正当）なものと認められて、権威として（人々が自発的に従う）受け入れたことを指す。この支配には次の３つの類型がある。

＊正当：法律、道徳、合理性などに照らして人々が正しい、妥当だと認める根拠

＊正統：人々が正しいものとして受け入れる根拠（法律、道徳、合理性などに照らして正しくないものであってもよい）

### ①合法的支配

●正統（正当）な手続きで定められた法律や規則によって、合法的に支配されていることを指す。特定の人物に服従するのではなく、制定された一定のルール（法律、規則等）に服従する。近代国家の多くはこの支配であり、支配する側はルールによって確定した権限内でしか、権力を行使できない。

### ②伝統的支配

●伝統や習慣、先例（家系や血統に基づく王位継承など）によって、支配されていること。支配者の有する伝統的な権威を永遠、不変のものとみなし、自発的、自然的に支配者に服従する。近代以前の社会に多く、現代もある。

# ⑭　３　権力とは何か⑤

③カリスマ的支配

●カリスマ性（英雄的な能力やふるまい、弁舌力がある等）を有する超人的、超自然的なリーダーに、人々が服従する支配を指す。預言者、軍事的英雄、民衆扇動家、そして、ヒトラーなどがこうしたリーダーの例である。カリスマ性は、最初は支配者個人にあっても、血統を通じて子孫や身内に受け継がれる場合もある（服従する側が、カリスマ性を受け継がれたと認めるならば）。

＊これらの３つの類型は、理論的な純粋な類型（理念型）であり、実際に行われてきた支配の仕組みを類型化したものではない。そのため、類型の３つのどれかに入るというよりは、３つが混じっていることが多い。

（４）権力構造

①寡頭制の鉄則（ミヘルス）

●あらゆる組織で組織を効率的に運営するために、少数の集団にリーダーシップが集中する。その結果、組織は規模が大きくなるにつれて、ピラミッド型の組織となり、組織のトップの少数の者に権力が集中すること。

＊寡頭制（かとうせい：社会や組織のトップの少数者による政治や支配のこと）

# ⑮　３　権力とは何か⑥

②パワー・エリート（ミルズ）

●パワー・エリートとは、ピラミッド型の権力構造の頂点に位置するエリート集団のことであり、政治的・経済的・軍事的なエリート集団の複合体（軍産官複合体）を意味する。パワー・エリート同士が、教育・経歴・交友関係で社会的に類似性を持ち、利害が一致しているため、エリート層の間で一致した利害を持ち、統一されたグループを形成している。

③多元主義（ダールなど）

●社会には多様な価値観や、これを反映した多様な集団が存在し、この集団はそれぞれの個別の利益を実現している。こうした集団で互いに競争や対立、調整を重ねた結果、政府の政策や公共サービスが生まれると考える。そのため、特定の集団の利益のみが全面的に実現されることはなく、集団の競争で社会全体の利益を調整する役割が果たされていると考える。

（５）国家の主権者

●16世紀は、権威と権力を掌握した君主（国王）が主権者であった。社会契約論者のホッブズは、「社会契約」を通じた絶対的な君主主権を理論化した。

●一方、同じく社会契約論者のルソーは、「社会契約」に基づいた人民主権（国民主権）を提唱した人民主権（国民主権）とは、国家の政治のあり方を最終的に決定する権力を人民（国民）が持つという考え方である。

# ⑯　引用・参考文献

●上神貴佳・三浦まり編(2024)『日本政治の第一歩[新版]』有斐閣

→政治学と日本政治を同時に学べる。ただし、高校の政治経済の「政治」の内容を身に付けていないと、独学で理解するのは難しい。

●増田正編著(2020)『政治学入門』一藝社

→高崎経済大学の教員が中心に執筆している。高崎経済大学の政治学の教科書であり、四大卒向けの公務員試験の出題範囲をカバーしている。

●川出良枝・谷口将紀編(2020)『政治学[第２版]』東京大学出版会

→社会人の教養として、政治や政治学を学ぶ入門書。思想、哲学から政治や政治学を学ぶ人向け。

＊次回の予習の範囲は

『図録政治学』の３、９です。

